

本報告書の要約

第1章 高校生の学習行動

(1) 好きな教科・嫌いな教科

高校生が好きな教科のベスト・スリーは、①体育（とても+まあ好き=60%）、②芸術（54%）、③社会（50%）。「数学」「英語」について成績上位者で「好き」と答える者が多い。（P.12表1-1、P.13図1-1）

(2) 主要5教科の理解度

授業を「ほとんどわかっている」「70%くらいわかっている」のは、国語、社会、英語、数学については35%から38%程度、理科にいたっては4人に1人程度。成績の自己評価別にみると、「数学」「英語」の2教科で大きな成績差がみられ、これら2教科の理解度が全体的な成績の自己評価を左右する、重要な教科となっている。（P.14表1-2）

(3) 授業の受け方

全体の傾向として、「黒板に書かれたことをきちんとノートに書き」「黒板に書かれていなくても先生の話で大切なことはノートに書く」などまじめに授業を受けている。しかし、「ほうっと他のことを考えている」「近くの人とおしゃべりする」など適当に息抜きをしている生徒もかなりみられる。「授業の内容が簡単すぎると思う」と答えた生徒は、全体でほぼ1割にすぎない。（P.15図1-2）

(4) がんばって勉強したい教科

がんばって勉強したい教科は、主要5教科に集中。英語86%、数学70%、理科42%、国語42%、社会29%であり、とりわけ英語と数学への集中度が著しい。（P.17表1-3）

(5) 家でどのくらい勉強しているか

「ほとんど毎日（6～7日）」が28%、「週に半分以上（4～5日）」が24%であり、両者をあわせるとおよそ半数が週に4日ないし5日以上学習する習慣をもっている。他方、「家ではほとんど勉強しない」と答えた生徒も2割弱に達する。成績の違いが勉強日数に反映している。成績が上がるほど勉強日数が多くなる。（P.19図1-3）

(6) 勉強時間、テレビ視聴時間、就寝時間

1日あたりの勉強時間の平均は、全体で1時間32分、このうち集中している時間は1時間2分である。成績が上位ほど勉強時間が多くなり、下位になるほどテレビの視聴時間が多くなる。

就寝時間の最頻値は午前0時、これを中心に午後11時から午前1時の間に8割強が集中している。属性によるばらつきは小さい。（P.21図1-4、P.22図1-5）

(7) テスト勉強の開始時期

最頻値は「1週間くらい前から」で32%、これに「10日くらい前から」（17%）、「4～5日くらい前から」（16%）が続く。「ほとんどしない」は2%、「当日の朝くらい」は0.4%とごく少数派である。成績の上位者、進学校ほど早めに準備を開始している。（P.23図1-6）

(8) 家での勉強内容

第一に学校の宿題（80%）、第二に学校の授業の予習（55%）。家での勉強内容は、学校の勉強が中心であり、かつ復習型よりも予習型である。進学率の低い高校で予習をする者が少なく、進学校で通信教育が多い。（P.24表1-4）

(9) 家での勉強の様子

7割の生徒が「自主的に勉強」し、「出された宿題」をきちんとやっていると答えている。ただし、「机に向かったらすぐに勉強にとりかかる」のは4割、「授業で習ったことを自分でもっと詳しく調べる」は2割、「授業で習ったことはその日のうちに復習する」は2割と少数派である。「ラジオやテレビをつけっぱなしで勉強する」といわれる「ながら勉強」は46%。（P.26図1-7）

(10) 学習塾と予備校

塾、予備校に通っているのは全体として13%。中学生や小学生と比べて少なく、高校生の学習は学校中心である。補習塾と受験塾はほぼきっこう、週に2日通っているのが平均的。通塾率は地域によって異なり、首都圏と中四国で高い。（P.28図1-8、P.29表1-5）

(11) その他の学習機会

「今年の夏休みに学校の補習授業を受けた」54%、「進研ゼミのような通信教育を受けている」17%、「トレーニングペーパーのような家庭学習教材をとっている」4%、「家庭教師についている」2%。学校の補習に集中し、他の学習機会の利用は少数である。補習授業への参加率は地方都市で高く、首都圏で低い。(P. 29 表 1-6)

(12) 勉強の仕方

高校生の半数以上が「よくする」「時々する」と答えているのが、①辞書(英語・国語など)を引く(76%)、②問題集の問題を解く(68%)、③教科書などにアンダーラインをひいたり、カラーマーカーを塗る(62%)。(P. 31 図 1-9)

(13) 勉強方法のタイプ

全体として、「学校で配付される教材を中心に」、「試験の前にまとめて」「自分で整理しながら勉強する」方法が、支配的。「できるだけ暗記しようとする」タイプと「できるだけ考えようとする」タイプはほぼきっこう。超進学校ほど復習中心よりも「予習中心」、試験前にまとめて勉強するより「毎日こつこつ勉強」、暗記するより「できるだけ考えようとする」、やさしい問題を数多く解くより「難しい問題をじっくり考える」タイプが多い。(P. 34 図 1-10、P. 35 図 1-11)

(14) 学業的能力の裾野

学業達成や理解度に関わるけれども、直接的には学校の学習に関わらない諸行動を「学業的能力の裾野」としてとらえた。学校での学業達成や授業の理解は、そうした日常的な知的行動や情報の摂取、知的関心に基礎づけられてはじめて高められるものと考えることができる。

自然や動物・植物の本を読む(14%)、日記をつける(15%)、美術館や博物館に行く(16%)、地域の図書館で本を借りたり読んだりする(23%)。(P. 37 図 1-12、P. 38 図 1-13)

(15) 精神的・肉体的疲労と学習行動

「だるい」85%、「あきっぽい」84%、「あくびがでる」83%、「目が疲れやすい」75%、「朝、なかなか起きられない」74%、「いらいらする」65%。(P. 39 図 1-14)

第2章 高校生の学習観・成績観

(1) 成績の自己評価

中位の3カテゴリーに3人に1人が集中。トップ・レベル(最上位)に自分の成績を位置づける生徒は3%とごく少数。超進学校では自己評価の低さが目立つ。(P. 42 図 2-1)

(2) どのくらいの成績がとれたらよいか

大半が「真ん中」よりも上位の成績を希望。真ん中以下の成績でもよいという生徒は、1割にみえない。(P. 44 図 2-2)

(3) うんとがんばれば、どのくらいの成績がとれると思うか

現在の成績はともかく、がんばって自分の能力をすべて発揮したとすれば、学年で中の上以上の成績がとれると、9割の生徒が考えている。(P. 45 図 2-3)

(4) 成績・学力観

「できるだけいい大学に入れるよう、成績を上げたい」54%、「将来ふつうに生活するのに困らないくらいの学力があればいい」48%。「学校生活が楽しければ、成績にはこだわらない」は26%と少数派。(P. 47 図 2-4、図 2-5)

(5) よい成績をとるためには

ベスト・スリーは、努力(82%)、授業をしっかり聞く(73%)、上手な勉強方法(71%)。生まれつきの能力(24%)、家族の協力(13%)、よい学習塾や予備校(5%)は少ない。(P. 49 図 2-6、P. 50 図 2-7)

(6) 勉強の効用

一生懸命勉強することは、第一に一流の会社に入ったり(77%)、その後の出世に役立つ(73%)、つまり「職業的な成功、地位の達成」の手段として役立つと考えられている。また周辺の効用への信仰も根強い。(P. 52 図 2-8)

(7) 勉強してうれしいとき

高校生の大多数が「うれしい」と感じるのは「難しそうなお題が自分で解けたとき」(94%)と「テストの点数が上がったとき」(93%)。(P. 54 図 2-9)

(8) 学習上の悩み

学習をめぐる悩みや不満は第一にこつこつ努力できない自分に対して向けられており、第二に上手な勉強の仕方を手に入れたいという欲求が強い。(P. 56 図 2-10、P. 57 図 2-11)

第 3 章 比較分析—中学生、小学生との比較からみた高校生の学習行動と意識

(1) 教科の好き嫌い

中学生・高校生になると、どの教科についても「好き」と答える者は減少する。とくに理科で顕著。また、中学生と高校生では大きな変化はない。(P. 61 図 3-1)

(2) 授業の理解度

学校段階が上昇するとともに、理解度は着実に低下する。教科の好き嫌いと同様に、とくに理科で著しい。(P. 62 図 3-2)

(3) 学習時間

高校生になると学習時間は分化する。小・中・高を通じて「ほとんどしない」がもっとも多いのは高校生であり(17%)、また同時に「3時間以上」ももっとも多い(18%)。(P. 63 図 3-3)

(4) 家での勉強の種類

高校生は、学校の宿題+学校の予習型が大半で、学校への依存度が高い。一方、中学生は高校生と比べて、学校の宿題に加えて、学校の復習と、さらに塾の予習復習、通信教育、家庭学習教材型が目立つ。(P. 64 図 3-4)

(5) 学校以外の学習機会の利用率

通塾率、家庭教師、通信教育、家庭学習教材、塾(予備校)の夏期講習のいずれについても、中学生の利用率が高校生を上回る。中学生は、学校以外の学習機会への依存度が大きい。(P. 65 図 3-5)

(6) 勉強の仕方をめぐって

高校生の特徴は、学校で配付される教材中心、予習中心で、市販の要点整理を使うよりも自分で整理をする。(P. 66 図 3-6)

(7) 精神的・肉体的疲労度

小学生よりも、中学生・高校生で疲労度は高まっている。しかし、小学生の段階で身体の不調を訴える子も多い。(P. 67 図 3-7)

(8) 成績観

小学生では「真ん中くらい」と中位に集中するが、中・高校生になるとそれが両端に分化し、高校生ではやや高位に偏っている。(P. 69 図 3-8)

(9) どのくらいの成績がとれたらいいか

小学生、高校生と比較して、中学生の希望は控え目である。(P. 70 図 3-9)

(10) よい成績をとるために大切なこと

高校生は、第一に努力、第二に上手な勉強方法、第三に授業をしっかり聞くことをあげている。とくに、小学生よりも「上手な勉強方法」を重視するようになる。(P. 72 図 3-11)

(11) 一生懸命勉強することの効用

高校生になると、勉強の効用を、経済的、職業的な面に限定してとらえるようになる。(P. 73 図 3-12)

(12) 学習上の悩み

中学生に比べて学習上の悩みは減少。ただし、「どうしてこんなことを勉強しなければいけないのかと思う」「世の中に出てから、もっと役に立ちそうな勉強がしたい」という意識は強まる。(P. 74 図 3-13、P. 75 図 3-14)